

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4271101893
法人名	社会福祉法人 ふるさと
事業所名	グループホームふるさと
訪問調査日	平成 20 年 1 月 17 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 19 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271101893
法人名	社会福祉法人 ふるさと
事業所名	グループホーム ふるさと
所在地 (電話番号)	長崎県西海市西海町川内郷1680番地 (電話) 0959-32-2323

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年1月17日	評価結果報告日	平成20年3月4日

## 【情報提供票より】(平成19年 12月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	新築 <input checked="" type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/>
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	— 円
敷金	有( ) 円	無 <input checked="" type="checkbox"/>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(平成19年 12月 1現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	70 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	金森医院、たいら医院、真珠園療養所、大串歯科
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型サービスとして、運営推進会議の開催はもちろん、日常的な近所付き合いや行事での交流を図り、「地域とともに」をモットーに、地域との協働、地元住民とのふれあいを重視した取り組みを行っている。  
「共助共援」という理念のもと、「和」と「思いやりの気持ち」をテーマに、温かい雰囲気の中で、安心して暮らし続けることができるように、利用者へ寄り添い、意見を尊重しながら一緒に献立を考え料理を作ったり、畑仕事を行ったりと、利用者が主体であるという考えを持って支援し、共に支えあう関係づくりに努めている。  
また、管理者と職員が一丸となり支援にあたり、利用者一人ひとりを尊重し、個性を活かした家庭的な雰囲気の漂ったグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は、評価の意義を十分に理解しており、外部評価の結果をもとに、ミーティングで事例をあげながら、具体的な勉強会を行うなど、改善に向けた取り組みを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を前向きに捉えて全職員で自己評価に取り組み、自己評価をもとにさらなるサービスの質の向上をめざした具体的な検討を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議要領に基づき3ヶ月に1回開催し、会議録もきちんと整理している。会議では、利用者やサービスの状況や評価への取り組み状況等について報告し、話し合いが行われている。会議出席者からの意見や提案事項については、ミーティング等において十分に検討を加えながら、サービスの向上に向けた取り組みを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には、毎月担当職員の手書きのたよりや、面会の際に、利用者の近況報告を行うとともに、常に親しみをもって話しかけ、何でも気軽に話してもらえようとする雰囲気づくりに留意している。また、家族から提案された意見や要望等については、申し送りやミーティングで話し合い、日々のケアに反映する仕組みを整えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの周辺には畑があり、作業されている方々が立ち寄ってくれるなど日常的な近所づきあいが行われている。また、地域の行事等に利用者と一緒に参加するとともに、ホームの行事にも地域の方々にも多数参加してもらっている。地域ボランティア、老人クラブ等の訪問も積極的に受け入れ、障害者施設との交流、小学校との相互訪問会など定期的な交流がごく自然な形でなされている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「共助共援」のもと、「和」と「思いやり」の気持ちを持って地域密着型サービスの向上に日々努力しており、開設当初から一貫して地域に根ざし、認知症の高齢者が、住みなれた地域で、その人らしく安心して暮らし続けられるよう支援している。	○	開設当初からの「利用者本位、地域とともに」という法人の基本姿勢が職員一人ひとりに浸透しており、管理者と職員が丸となって地域に密着したサービスの向上に取り組み、現状に満足することなく向上を目指しておられるので、今後も変わらぬ取り組みに努め、さらなる向上と発展を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者が、地域の中で、その人らしく明るく笑顔で安心して暮らし続けることができるよう支援していくことを念頭に、独自のわかりやすい理念と職員の心構えを掲げ、日々のケア実践の中で、いつでも、どこでも活かせるよう、ミーティングや申し送りなど、機会あるごとに確認し合い、管理者と職員が丸となって理念等の共有、具体化に努めている。	○	十分に理念の共有、具体化に努め、現状に満足することなく向上を目指しておられるので、今後のさらなる向上と発展を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周辺には畑があり、作業されている方々がホームに立ち寄ってくれるなど日常的な近所づきあいが行なわれている。また、地域の行事等に利用者と一緒に参加するとともに、ホームの行事にも地域の方々に多数参加してもらっている。地域ボランティア、老人クラブ等の訪問も積極的に受け入れ、障害者施設との交流、小学校との相互訪問会など定期的な交流がごく自然な形でなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、評価の意義を十分に理解し、評価を前向きに捉えて全職員で自己評価に取り組み、自己評価をもとにさらなるサービスの質の向上をめざした具体的な検討を行っている。また、外部評価の結果をもとに、ミーティングで事例をあげながら、具体的な勉強会を行うなど、改善に向けた取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議要領に基づき3ヶ月に1回開催し、会議録もきちんと整理している。会議では、利用者やサービスの状況や評価への取り組み状況等について報告し話し合いが行われている。会議出席者からの意見や提案事項については、ミーティング等において十分に検討を加えながら、サービスの向上に向けた取り組みを行なっている。	○	この会議を通して、出席者にグループホームの設立の背景や特徴、役割等々を理解してもらい、サービス向上を具体化していくモニターとして協力を得るなど、今後も引き続き運営推進会議がサービス向上に繋がるよう取り組まれることを期待したい。

長崎県 グループホームふるさと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市直営の地域包括支援センターと定期的に情報交換を行っているほか、市担当者もメンバーに加わっている地域密着型サービス事業所連絡会議の世話人として、事業所の実情やケアサービスへの取り組み等、地域密着型サービスの向上に向けて積極的に連携を図っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、担当職員が手書きしたたよりで家族に利用者の現況を報告しており、写真を同封するなどして、個々人に合わせた報告を行っている。また、家族の面会の際には、写真を見てもらったり、生活記録や金銭出納帳などを確認してもらったりして、その都度、家族からの確認印やサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、たよりや面会の際に、職員から常に親しみをもって話しかけ、何でも気軽に話してもらえるような雰囲気づくりに留意している。また、家族から提案された意見や要望等については、申し送りやミーティングで話し合い、日々のケアに反映する仕組みを整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との信頼関係を築くため、担当を決め馴染みの職員によるケアを心がけている。また、やむを得ない職員異動や退職の際には、利用者や家族に不安や不満を抱かせないよう、きちんとした説明を行うとともに、一定期間退職者と新任者が一緒に勤務しながら引継ぎを行うなどの工夫に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修も、なるべく多くの職員が受講できるように、勤務調整、研修費用の負担などに配慮している。研修参加者は、研修報告書を管理者へ提出するとともに、全職員が閲覧し研修内容を共有できるようにしている。また、定例の勉強会でも報告するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市社会福祉協議会や市の福祉施設協議会等が主催する研修会、行事に参加することにより、同業者との意見や情報交換などを行っている。また、地域密着型サービスに特化した同業者との情報交換や勉強会等の実現に向けて、現在、市と地域密着型サービス事業者による連絡協議会の発足準備を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら、家族や入居まで関わってきた人たちにホームに来てもらったり、状況に応じて一緒に宿泊してもらうことなどを繰り返し、本人がホームの生活に安心感を持って馴染めるように努めている。また、自宅で使用していた馴染みの家具などを居室に配置し、自宅との違和感をなくす雰囲気づくりにも配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ホームの主は利用者である」という考えを、職員同士で共有し利用者のケアを行っている。普段から、利用者に調理の技や工夫を覚えてもらう場面も多く、できるだけ多くの場面作りができるよう声かけやセッティングに配慮して、利用者の思いや喜びを共有するとともに、共に支え合う関係づくりの支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの思いや生活習慣の把握に努めている。また、意思疎通が困難な利用者には、家族から情報を得たり、寄り添いながら本人の思いや意向をそれとなく確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、アセスメントを含め、職員全員で意見交換やカンファレンスを行い、より具体的な介護計画を作成している。また、本人や家族には、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもちろん、状態変化や家族、利用者の希望等に応じた見直しも随時行い、記録もきちんと残している。職員は、介護計画に基づいてケアを展開しており、利用者との関わりの中で気づいたことや意見は、申し送りノートに記録して、随時検討し、介護計画にも反映するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院やリハビリへの同行などに柔軟に対応し、個々人の満足感を高めるよう努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と利用契約時に話し合いを行い、受診する医療機関を決めるようにしている。また、利用者の主治医、家族、ホームの協力医療機関等と協議のうえ、適切な医療を受けられるよう支援体制を整えている。受診や通院については、家族の同意のもとにホームの職員が支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に、利用者及び家族等の希望を聴き、納得のいく話し合いを行うようにしている。また、できるだけ早い段階から、利用者や家族、かかりつけ医、協力医療機関等と繰り返し話し合いを行い、重度化や終末期の支援について方針を決め、共有するよう努めている。	○	グループホームにおける大きな課題の一つとして、今後も引き続き支援に努められ、取り組みのさらなる充実を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に、プライバシー確保の徹底について職員の意識向上を図っている。また、職員は利用者一人ひとりに尊敬の念をもって接し、利用者一人ひとりに合わせた言葉づかいに配慮しながら誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしておらず、利用者の体調に配慮しながら、その日、その時の利用者個々人の気持ちを尊重して、起床や食事の時間も柔軟に対応し、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを活かしながら、職員と利用者が一緒に献立をつくり、食材選びから買い出し、調理、盛り付けにいたるまで利用者とともにやっている。食事も、利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、楽しめるよう支援している。また、外食などの支援も行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が入浴したい時に、いつでも自由楽しめるように支援を行っており、利用者の体調に合わせて足浴などの支援も行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や能力を活かした役割、楽しみごとが持てるよう利用者と話し合いながら、外出や買い物、ドライブなど気晴らしの支援を行ったり、花や野菜づくりなどの場面づくりを行ったりしている。訪問当日は、洗濯物たたみ、塗り絵などを行っている利用者の姿が見受けられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、利用者の気分や希望に合わせて、できるだけ外気に触れて肌や目で季節を感じ心身の活性につながるように、日常的に散歩や買い物、ドライブ等への外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ごく自然に、さりげなく「見守る」ことを基本として、職員による徹底した見守り支援を行うことで、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支えている。利用者が外出しそうな気配を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけて一緒に出かけるなど、安全面にも配慮した支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを設置し、マニュアルに基づいた訓練を実施している。訓練後は振り返りを行い、記録を残している。また、避難誘導口や消火器の点検、消火器の使い方の訓練を定期的に行い、避難場所も全職員が把握している。地域においても、民生委員や地区役員等との「防火、防災懇談会」を開催したり、所轄の消防署、地元消防団との連携のもとに災害時訓練等を行ったりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分などの摂取状況は一日を通してチェック表に記録し、全職員が情報を共有している。利用者一人ひとりの食事摂取量をもとに、おおまかな栄養摂取量も把握している。また、献立は基本的に法人内の管理栄養士が作成しており、地域の方からもらった食材を活かして、状況に応じてホームで献立を変更している。		
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の飾りつけや家具の配置等は、利用者と一緒に考え、利用者が自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるように工夫している。居間には、ソファや椅子などを配置し、利用者の居場所の確保にも十分配慮している。また、利用者と職員の手づくりのカレンダーを壁にかけ、季節の花を随所に生けるなど、ごく自然に季節感を漂わせる配慮が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのタンスや写真、使い慣れた日用品などが持ち込まれており、利用者の好みや習慣等の把握に努め、本人や家族の意向を確認しながら、家具の配置を考え、観葉植物を置いたり、季節の花を飾ったりして居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。		